

かねよし

パネルベンダー導入

小型高速ベンダーも新設

一般鋼材やステンレス、アルミの加工販売を行うかねよし(本社 埼玉県川口市、吉田竜一社長)はこのほど、金型自動交換機能搭載のパネルベンダーと、小型の高速ベンダーをベースで新設し、曲げ加工を強化した。昨夏導入した出力10キワットのレーザー切断機と合わせ、トルンブの最新モデルを立て続けに投入しており、自動化や省力化などの優位性を先取りし、競争力強化につなげる。



新設したパネルベンダー

新たに導入したパネルベンダーはトルンブ製の「TruBend Center 5030」。最大加工サイズは3050ミリ。最大板厚は普通鋼、ステンレスともに3・2ミリ。パネル加工に適した設備で、上下の刃のどちらからも曲げ加工が可能。対象物を一度も裏返さずに、高精度のR曲げや複雑な形状の曲げを実現する。金型自動交換機能や曲げ角度



高速・高精度加工が特長の小型ベンダー

を測定するセンサーを搭載し、ヒューマンエラーも防ぐ。吉田社長は「導入後、アルミのパネルを200枚加工する仕事を受けたが、一般的なベンダーであれば、1枚当

たり12回ひっくり返す作業が発生していた」として、「生産性向上と従業員の負荷軽減の両面で導入効果は高い」と話す。小型ベンダーの「TruBend 7050

最新設備を相次ぎ導入



加工したアルミパネル

0」も最新モデルで、サーボドライブによる高速・高精度加工が特長。人間工学に基づいた設計で、操作盤やモニターが作業しやすい位置に配置されているのも長所だ。最大板厚は12ミリ。最大幅は1500ミリと小型だが、当社の加工品の7・8割は1500ミリに収まるサイズ(吉田社長)であることから、生産性向上に寄与しており、小物品の量産対応も向上する見込み。オープンハイトが広く、深曲げも容易となる。

後処理のバリ取りも拡充し、3基のうち1基を新鋭機に更新する予定。独・リスマック

製の設備を発注しており、今春にも導入予定という。